

■ 北 陸 支 部 だ よ り ■

◆第28回北陸支部定期総会開催◆

〈定期総会〉

平成22年5月25日(火)午後2時30分から名鉄トヤマホテルにおいて、会員27名の出席により、第28回北陸支部定期総会が開催されました。

総会は、先ず鹿田支部長の挨拶、(社)日本測量協会 高橋理事・事務局長の挨拶に続き、来賓の富山県知事(代理 柴田聡土木部次長)及び吉池北陸地方測量部長から祝辞をいただき、その後、議事に移り、議長に北原(社)石川県測量設計業協会会長)氏を選出し、次の3議案について事務局から説明を行い、審議の後、議案のとおり全会一致で承認されました。



鹿田支部長



高橋本部事務局長

- ・第1号議案 平成21年度事業報告並びに収支報告
- ・第2号議案 平成22年度事業計画並びに収支見込(案)
- ・第3号議案 役員、評議員の改選



柴田富山県土木部次長



吉池北陸地方測量部長

〈講演会〉

総会に引き続き、講演会は、『論語』の面白さ」と題して、文学博士であり、華東師範大学(上海市)歴史系客座教授である中村哲夫先生の講演を行いました。

先生は、専門が東アジアの近代の歴史であり、特に中国の歴史に造詣が深く、今回お話された『論語』の面白さは、最近、居酒屋チェーン店の経営者が論語本を出版されたように、経営者の必読書としている人が多い。論語の読み方は、小説のように始めから読まなくても、ページを開いたところを読めばよい。読んでいく中で、感銘を受けたところをメモし、ファイルにしていくと「私の論語」ができる。中国、韓国、日本それぞれ論語に対する考え方が違ってきている。論語は、漫画のような笑いの面白さはないが、愉快さがあると



中村先生の講演

説かれていました。

〈懇談会〉

講演会の後、懇談会が開かれ、鹿田支部長のあいさつと、吉池部長の乾杯で始まり、終始和やかな雰囲気で行われました。

ご出席の皆さん有難うございました。今年度も北陸支部をよろしくお願いします



吉池部長の乾杯

○平成21年度事業報告

事業の報告

平成21年度の北陸支部事業につきましては、第27回北陸支部定期総会で議決された事業計画に基づき取り組んで参りました。

測量業界を取り巻く厳しい状況が続き、会員の減少或いは講習会の受講者の減少が避けられない環境下ではありましたが、新たな会員サービスを導入し、また新しい講習会を取り入れるなど事業の充実に努め、概ね計画どおりに実施することができました。

また、特に重点として、今後各企業にとっても重要となってくる測量 CPD 及び SUCCESS（測量技術者継続教育証明制度）の登録、或いは専門技術認定制度について、講習会及び役員会、その他支部報等を通じて広く呼びかけを行いました。

1. 講習会等

◇本部と共催

講 習 会 名	開 催 日	会 場	参加者数
基準点測量 B 課程（基準点測量）講習会	21. 6. 23～7. 1	いこいの村富山	19名
基準点測量技術講習会（公共測量「作業規程の準則」解説と運用）	21. 6. 11	テクノホール	59名
	21. 6. 12	新潟テルサ	78名
用地測量調査（Ⅰコース）(1)Web	21. 10. 5～10. 9	測量会館	3 名
〃 （Ⅱコース）(2)Web	21. 11. 9～11. 11	測量会館	1 名
〃 （ 〃 ） (3)Web	21. 11. 11～11. 13	測量会館	2 名
応用測量技術講習会（公共測量「作業規程の準則」解説と運用）	22. 1. 28	テクノホール	58名

◇支部主催

講 習 会 名	開 催 日	会 場	参加者数
測量成果電子納品に伴う電子成果の作り方	21. 5. 18	ボルファートとやま	29名
	21. 5. 19	新潟県土地改良会館	47名
ネットワーク型 RTK-GPS を利用した基準点測量	21. 9. 9	大山地域市民センター	12名
	21. 9. 10	新潟県土地改良会館	16名
デジタルカメラを使った写真測量のしかた	21. 11. 5～11. 6	NSG 学生総合プラザ	24名
TS による 3・4 級基準点測量	22. 3. 9	NSG 学生総合プラザ	25名
	22. 3. 10	ボルファートとやま	20名
測量士・測量士補答案練習セミナー	22. 3. 17～3. 19	新潟県土地改良会館	士 6 名
			補 6 名

2. 測量関係図書等の販売

◇図 書

品 名	冊 数
受験テキスト	43
公共測量作業規程の準則 解説と運用	42
科目別模範解答集	31
公共測量作業規程の準則	19
その他	86
合 計	231

◇測量観測手簿用紙

品 名	枚 数
公共21号 三・四級水準測量手簿	850
公共44号 測量観測手簿	300
公共54号 横断測量観測手簿	250
その他	100
合 計	1500

◇登録申請書

品 名	部 数
測量士・士補登録申請書	453

3. 会員サービス

◇基準点測量成果謄抄本交付申請代行事務

種 類	点 数
成 果 表	336
点 の 記	181
配 点 図	5
合 計	522

◇支部報「測標」の発行

発 行 日	号 数	部 数
21. 4. 15	No.100 (陽春号)	1300
21. 7. 15	No.101 (盛夏号)	1000
21. 10. 15	No.102 (仲秋号)	1000
22. 1. 15	No.103 (新年号)	1000

4. 特別行事等実施状況

行 事 名	実施時期	場 所	実 施 内 容
講 演 会	21. 5. 26	名鉄トヤマホテル	モロ師岡の「劔岳点の記」を語る 講師 モロ師岡氏 聴講者143名
「劔岳点の記」 パネル展示	21. 5. 18～ 8. 24	富山シアター大都会	劔岳点の記パネル5枚及び同関係資料展示 配布

5. 会員の状況

区 分	H21年3月末	H22年3月末	増減	新潟県	富山県	石川県	福井県
正 会 員	474名	472名	△ 2	218名	106名	84名	64名
準 会 員	9名	0名	△ 9	0名	0名	0名	0名
特別会員	189社	183社	△ 6	79社	46社	34社	24社
計	672名社	655名社	△17	297名社	152名社	118名社	88名社

○平成22年度事業計画

事業計画の概要

平成22年度の北陸支部の事業については、測量業界において依然として厳しい状況が続いておりますが、日本測量協会が目的としている測量技術者の普及発達を図り、会員相互の親和と社会的地位の向上のための活動に取り組んで参ります。

(1) 会員の拡大

各県測協の協力を得て、関係会社の技術者にPRするとともに、講習会受講者及び出版物販売に際し入会の案内に努めます。また、支部報「測標」等を通じて、当協会が行っている事業等をPRし、会員の拡大に努めます。

(2) 講習会

測量技術者が技術の維持向上を図るため、広範な知識及び新技術の習得を内容とした講習会を開催します。なお、受講者の募集に当たっては広く PR に努めます。

(3) 図書等の販売

当協会発行の法規関係図書、測量技術図書、測量士・測量士補登録申請用紙、各種測量簿用紙等の販売を引き続き行い、併せて利用いただくための PR に努めます。

(4) 会員サービス

会員に対して各種の情報を提供するため支部報「測標」を年 4 回（4 月、7 月、10 月、1 月）発行します。

測量成果謄抄本交付の代行事務及び測量 CPD 学習履歴登録の申請代行を引き続き行い、会員へのサービス向上に努めます。

平成22年度講習会計画

◇本部と共催

講 習 会 名	開催予定日	会 場
路線測量設計 I コース Web・認定試験	22. 4. 13～4. 16 (4日間)	富山市（測量会館）
基準点測量 B 課程（水準測量コース）・認定試験	22. 5. 31～6. 4	富山市（かんぽの宿）
路線測量設計 II コース Web ビデオ・認定試験	22. 6. 22～6. 25 (4日間)	富山市（測量会館）

◇支部主催

講 習 会 名	開催予定日	会 場
測量成果電子納品に伴う電子成果の作り方	22. 5. 10	新潟市（新潟県土地改良会館）
	22. 5. 11	富山市（ボルファートとやま）
GPS による 1・2 級基準点測量	22. 6. 15	新潟市（新潟県土地改良会館）
	22. 6. 16	富山市（ボルファートとやま）
デジタルカメラを使った写真測量のしかた	22. 8. 5～8. 6 (2日間)	野々市町（金沢工業大学）
TS による 3・4 級基準点測量	22. 11 上旬	新潟市
	22. 11 上旬	富山市
測量士・測量士補答案練習セミナー	23. 3 下旬 (3日間)	新潟市

第28回定期総会 挨拶

(社)日本測量協会北陸支部長 鹿 田 正 昭

本日は日本測量協会北陸支部平成22年度総会にご多忙のところご出席をいただきありがとうございます。また、富山県土木部次長 柴田 聡様、国土地理院北陸地方測量部長 吉池 健様、北陸地方整備局富山河川国道事務所副所長 畠中 泰彦様にはご多用中のところご臨席を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。

また、協会本部からは高橋事務局長にご出席をいただきました。ありがとうございます。

平成21年度は「劔岳 点の記」の全国ロードショウがあり、観客数が240万人を超えました。木村大作監督は第33回日本アカデミー賞で最優秀監督賞を初め6部門の賞を受賞し、最多受賞に輝いたことは周知のとおりであります。木村監督の「本物の映画を作りたい」というシンプルな想いから、新田次郎の「劔岳 点の記」に出会ったということにとどまらず、この映画のすばらしさを証明したものであります。さらに、皇太子殿下が日本山岳会会員のお立場で鑑賞されたことも特筆すべき出来事であったかと思えます。

この映画を、私の勤務する金沢工業大学環境土木工学科の1年生全員に鑑賞してもらった際に、レポートとして感想を書いてもらいました。そのうちの一部は「測量」3月号に掲載していただきましたが、予想以上に若い学生たちがこの映画、つまり測量の世界を新鮮にとらえていることがわかり、安堵いたしました。

測量を含む空間情報工学は地味ではありますが、国民生活において重要な技術であり、測量の永い歴史を若い人々にも「映画」という媒体を介して伝えられたことは、測量を生業とする協会会員各位においても将来有望な人材を育てるきっかけになったと感じております。

ところで、地理空間情報活用推進基本法、宇宙基本法などの制定により、高度空間情報社会の構築に測量系・空間情報系技術は益々重要になってきております。今年中には日本が初めて打ち上げる測地衛星である「みちびき」（これは準天頂衛星であります）が運用を開始する予定になっております。また、9月には産学官連携によるG空間エキスポが開催されることは周知のとおりであります。基本法が制定されて3年が経過しました。この間には世界同時不況、政権交代など社会情勢がめまぐるしく動いております。測量をとりまく環境にも目立った改善の兆しがあるようには思えません。しかし、このような時にこそ、地方のみなさんが主体となり、叡智を絞って新たな産業の創出や官民協力による新しいサービスに対する創意工夫が必要と思えます。日本測量協会北陸支部としてもこのような活動に積極的な支援をしていかなければならないと考えております。

さて、本日の特別講演は東洋の歴史に造詣が深い、元神戸学院大学人文学部教授で「東アジアの近代の歴史」をご専門とされ、現在華東師範大学（かとうしはんだいがく）客員教授の中村哲夫先生にお願いいたしました。先生のご略歴等は講演会の際にご紹介されますが、本日は「論語の面白さ」と題して、興味あるお話をしていただけるものと存じております。先生のご講演もぜひお聞きいただきたいと思えます。

最後に、本日の総会が有意義なものとなりますよう、提出議案につきましてご審議いただきたいと思えます。また、今後とも日本測量協会北陸支部の活動にご関心をいただき、ご支援をお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

本日はご出席ありがとうございました。

金沢工業大学環境・建築学部
環境土木工学科 教授

第28回定期総会 祝辞

国土地理院北陸地方測量部長 吉 池 健

〈はじめに〉

日本測量協会北陸支部第28回総会の開催を、心よりお慶び申し上げます。

北陸支部並びに会員の皆様方には、常日頃から何かにつけ国土地理院の業務に多大なご理解とご協力を賜っており、厚く御礼申し上げます。

昨年のこの総会では、映画「劔岳点の記」の上映を間近に控え、上映が成功して測量への理解が広がってほしいという期待が大きかったことが思い出されます。果たして見てくれるのだろうか。そんな心配をよそに、富山での先行上映を皮切りに、全国で約240万人もの人が劇場に足を運び、大成功に終わりました。日本測量協会の月刊誌「測量」による足かけ2年に亘る関連のキャンペーンが、測量関係者の大きな盛り上がり築いたものと振り返っています。さて、映画で描かれた明治の三角測量は、厳しさの中にもどこか懐かしさを覚えるものがありました。あれから100年、測量・地図をめぐるのは、社会の動きとともに大きく移り変わり、宇宙技術やITなどの先端技術を取り入れ、測量技術は進歩し続けています。

〈「基本法」と産学官連携〉

こうした中で、平成19年には、地理空間情報活用推進基本法が成立し、測量法の改正や基盤地図情報の整備など、諸々な具体的施策が執られてきているところです。「国民が安心して豊かな生活を営むことができる経済社会を実現する上で地理空間情報を高度に活用することが極めて重要」になっていると「基本法」は謳っており、そのためにも、産学官が「相互に連携を図りながら協力する」ことを求めています。北陸地方では、昨年11月、関係者のみなさまのご協力により、地理空間情報に関する北陸地方産学官連絡会議を開催し、産学官連携の出発点を築くことができました。日本測量協会北陸支部長の鹿田先生には、「連絡会議」の座長になっていただいたことをはじめ、大きなお力添えをいただきました。今年の「産学官連絡会議」は、さらに連携の輪を広げ、年に2回の開催を予定しています。地理空間情報に関する活用事例、課題や将来展望などの情報提供を行うとともに、地方行政の効率化・高度化に向けた地理空間情報の活用についての情報交換、意見交換を活発におこなって行きたいと考えています。ご協力のほどよろしくお願いします。

〈G 空間 EXPO〉

連携と言えば、既にご案内のとおり、今年の9月19日から21日の3日間、パシフィコ横浜において、中央における産学官の連携により初めて「G 空間 EXPO」が開催されます。地理空間情報の一般への普及・発展を目的として、地理空間情報高度活用社会を展望するイベントです。各種の最新の測量技術などの展示をはじめ、様々な業種が参加し、新産業の創造に寄与する講演会やシンポジウムなどが予定されています。来場者の目標は、5万人と聞いています。会員の皆様におかれましては、時間が許す限り、是非とも、横浜に足を運んで欲しいと思います。また、地方公共団体の関係者にも、是非とも、「G 空間 EXPO」の宣伝をしていただきたく、よろしくお願いします。

〈とやま地図作品研究会の設立〉

ところで、平成19年に富山で開催された地図展を契機に始まった「とやまみんなの地図作品展」ですが、今年で第4回目を迎えます。富山県内の小・中学生を対象にした地図作品のコンクールで、これまで、北陸地方測量部が主催し、開催してきましたが、今年からは、「とやま地図作品研究会」

を設立し取り組むことにしています。この研究会は、いわゆる学会と同様に有志の集まりとしてボランティアで運営されますが、趣旨に賛同する団体も特別会員として参加できますので、北陸支部や富山県測協さんにも参加をお願いしております。今後は、北陸地方測量部は後援に回りますが、できる限りのバックアップをして行きます。「基本法」では地理空間情報の活用の推進を担う人材育成が謳われており、その意味でも、小・中学生の地理教育は重要です。北陸地方における唯一の地図作品の発表の場である「とやまみんなの地図作品展」を継続・発展させ、将来的には北陸地方全体の取り組みへと広がることを期待しています。

〈終わりに〉

以上、連携に関連する取り組みについて3点ほど報告させていただきました。何れにしましても、地理空間情報高度活用社会を展望したとき、日本測量協会の役割は、ますます重要となっていくことは間違いありません。最後になりましたが、ご列席の皆様方のご健康とご活躍を祈念いたしますとともに、日本測量協会北陸支部のますますのご発展を祈念し、祝辞とさせていただきます。

役 員 名 簿

新

支 部 長	鹿 田 正 昭	金 沢 工 業 大 学 教 授
副支部長	古 川 征 夫	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 会 長
〃	楠 則 夫	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 会 長
〃	北 原 良 彦	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 会 長
〃	若 林 喜久男	(社) 福 井 県 測 量 設 計 業 協 会 会 長
幹 事 長	山 本 英 一	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 副 会 長
副幹事長	鳥 越 光 雄	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 専務理事
幹 事	飯 塚 正 俊	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 副 会 長
〃	新 保 仁	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 副 会 長
〃	桑 原 清 一	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 副 会 長
〃	舘 下 義 秋	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 元 会 長
〃	市 森 武	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 前 会 長
〃	大 代 武 夫	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 副 会 長
〃	井 上 大 世	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 前副会長
〃	新 家 久 司	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 副 会 長
〃	黒 木 輝 久	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 副 会 長
〃	芝 田 清 邦	(社) 福 井 県 測 量 設 計 業 協 会 副 会 長
〃	宮 腰 実	(社) 日 本 測 量 協 会 北 陸 支 所 支 所 長
監 事	吉 澤 隆	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
〃	中 西 誠一郎	(社) 福 井 県 測 量 設 計 業 協 会 専務理事

評 議 員 名 簿

新	評 議 員	卜 部 泰	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	山 本 眞	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	山 岸 陽 一	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	佐 藤 巧	(社) 新 潟 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
新	〃	鷺 北 慎 一	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	立 野 正 治	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	寺 島 郁 子	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	高 島 正 紀	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
新	〃	佐 野 伸 吾	(社) 富 山 県 測 量 設 計 業 協 会 監 事
	〃	石 川 通	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	原 章	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	小 畑 正 昭	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	大久保 伸 一	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	磯 野 洋 明	(社) 石 川 県 測 量 設 計 業 協 会 理 事
	〃	五 井 輝 之	(社) 福 井 県 測 量 設 計 業 協 会 常任理事
	〃	高 岡 昌 和	(社) 福 井 県 測 量 設 計 業 協 会 常任理事
	〃	毛 利 茂 則	(社) 福 井 県 測 量 設 計 業 協 会 常任理事
	〃	野 坂 康 雄	(社) 福 井 県 測 量 設 計 業 協 会 常任理事
	〃	中 嶋 一 雄	元 北 陸 工 業 専 門 学 校 元副校長
	〃	中 藪 睦	富山県立南砺総合高等学校福野高校 教 諭
	〃	見 越 秀 和	福 井 県 立 若 狭 東 高 校 教 諭
	〃	北 川 正 幸	福 井 県 立 大 野 東 高 校 教 諭

◆支部定期監査の実施◆

平成22年4月21日(水)11時30分から測量会館において、吉澤及び中西両監事により、平成21年度経理書類等について監査を実施しました。

監査結果は、適正に処理されているとの講評がありました。

◆支部役員会を開催◆

平成22年4月27日(火)13時30分からボルファートとやまにおいて、北陸支部役員会を開催しました。この役員会では、鹿田支部長他13名の役員が出席し、5月25日に開催される支部定期総会に諮る議案について、審議いたしました。その他、講演会、懇談会等について打ち合わせを行いました。



支部役員会

◆「とやま地図作品研究会」発足される◆

平成22年5月26日(水)に測量会館において「とやま地図作品研究会」の設立総会が、賛同者21名(5月26日時点)のうち15名の出席により開催され、同会が発足しました。

この研究会の設立により、「とやまみんなの地図作品展」は今後この研究会が主催することになります。また、全国児童生徒地図作品展連絡協議会に加盟することにより、「全国児童生徒地図優秀作品展」で最も優秀な作品に選ばれると文部科学大臣賞、国土交通大臣賞を受賞できる道ができたことになります。このことは、作品を応募する上でも大きな励みになると思います。

(詳細については、北陸地方測量部ニュースのページをご覧ください。)

なお、この研究会の事務局は、当支部に置くことになりました。

「とやま地図作品研究会」では、個人を対象にした正会員(入会時1,000円)と、会の活動に参加協力する団体の特別会員を募集しています。

平成22年度 とやま地図作品研究会 役員名簿

役 職	氏 名	所 属 先
会 長	大 西 宏 治	富山大学人文学部 准教授
幹 事 長	名 取 三喜男	日本測量協会北陸支部 事務局長
幹 事	松 崎 清 治	国土地理院北陸地方測量部 次長
同	中 野 修	国土地理院北陸地方測量部 測量課長
同	山 本 英 一	富山県測量設計業協会 副会長
同	高 島 正 紀	富山県測量設計業協会 理事
監 査 役	鳩 谷 昇	国土地理院北陸地方測量部 管理課長

(問合せ) 「とやま地図作品研究会」 事務局(社団法人日本測量協会北陸支部)

〒939-8094 富山市大泉本町1-12-14 測量会館

TEL 076-422-3305 FAX 076-422-3403

E-Mail: natori@jsurvey.jp